

RACE REPORT



**SUPER
FORMULA**

Round.05 **MOTEGI**

第5戦 モビリティリゾートもてぎ

2024年8月25日(日)

決勝

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

決勝：リタイア

#39 大湯 都史樹

決勝：6位

事前には雨の予報がありながら、暑さのなか行われた8月24日(土)の公式予選。VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは大湯都史樹が超僅差のなか3番手を獲得する一方で、阪口晴南はトラブルもあり、11番手という予選順位で終えていた。

迎えた8月25日(日)の決勝日もモビリティリゾートもてぎには雷雨の天気予報が出ており、どんなコンディションになるかは予想もつかなかった。そんな決勝日に向け、チームは前日の予選後からどんなシチュエーションになろうともしっかりと対応するべく、準備を進めていった。

PRACTICE フリー走行

8月25日(日) 9:10~9:40 天候：曇り 路面：ハーフウェット/ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'35.137 / #39 大湯都史樹 1'35.245

前日の公式予選の後、モビリティリゾートもてぎには洪水警報が発令されるほどの激しい雷雨が降り、その雨は夜半まで続いた。ただ一夜明けた8月25日(日)のもてぎは薄曇りながら陽が差す天候となった。

路面は全体的に乾いていたとはいえ、前日の雨の影響でコース上はわずかに濡れていた部分もあり、午前9時10分からの決勝日のフリー走行を前に、ウェット宣言が出されていた。

そんななか VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、コースオープンとともに阪口晴南、大湯都史樹がともに走行をスタート。前日トラブルもあった阪口は、二度のピットインを経ながら10周目に1分35秒137を記録。9番手でセッションを終えた。

「それほど悪くはなかったと思いますが、上位とは差を感じました」と阪口。ただ、前日の予選後には、アタックのフィーリングからの気づきもあったという。

「予選で失敗してしまっていたところがあったのですが、そこで“怪我の功名”で分かったところがあったんです。具体的にはフロントまわりのセットアップなのですが、それが決勝にも活きると思います」と阪口はレースへの手ごたえを語った。

一方、レースでは3番手からスタートする大湯は「あまり調子は良くなかったです」というフリー走行となった。3周目に1分35秒245というタイムを記録し12番手で終えたが、「理由があって、予選から大きく変更せずに臨みました。前戦のペースが良かったので、それを基本として戦いたいです」と大湯は決勝に向け語った。

それぞれに課題と手ごたえを得たフリー走行。ただ前日同様、決勝レースでは雷雨の予報もあった。チームはあらゆる可能性を視野に入れながら準備を進めた。



RACE

決勝レース

8月25日(日) 14:40~15:44 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'35.767 (13L) / #39 大湯都史樹 1'35.151 (12L)

心配された雨雲は見えないまま、午後2時40分に迎えた決勝レース。気温33度/路面温度37度という暑さのなか、1周のフォーメーションラップを経てスタートが切られた。

3番手からスタートした大湯は、自身としては悪くない発進だったものの、抜群のスタートを決めアウト側から襲いかかった#5 牧野任祐に先行を許してしまい、4番手に後退してしまう。一方の阪口は11番手から好スタートを切り、9番手に浮上しオープニングラップを終えた。

序盤、緊迫した接近戦が展開されていったが、大湯は4番手に。一方阪口は9番手から前を行く#8 福住仁嶺をかかわそうとするも、これを抜けず逆に#36 坪井翔に先行を許し10番手でレースを進めていく。大湯は3番手の#5 牧野から大きく離されるわけでもなく、また阪口も僅差の集団のなかでの戦いを展開していった。

チームはそんな展開を見ながら、早めにピットインしクリーンエアのもと走るアンダーカット作戦を採った。まずは10周を終え大湯をピットに呼び戻すと、翌周には阪口をピットインさせていった。上位陣のなかでも戦略は分かれており、先にピットインしたVERTEX PARTNERS CERUMO・INGING勢は作業を終えたなかで2番手、5番手につけていたが、どちらもわずかにピット作業にロスがあったことから、タイムを失ってしまっていた。

そんななか、レース後半に向けて戦いを進めていたチームに衝撃が走った。17周目、4コーナーに向けて立ち上がっていた阪口が力なくスローダウンしてしまったのだ。原因は電気系トラブル。阪口は2戦続けてのリタイアという悔しい結果となってしまった。

そんな阪口の悔しさを晴らすかのようにレース終盤に向け戦いを続けていたのは大湯だったが、後半にピット作業を行

ったライバルたちが、フレッシュなタイヤの状態を活かし続々と大湯の後方に迫ってきた。

25周目、序盤から大湯を先行していた#5 牧野がコース半周近くに渡るバトルの末、大湯をオーバーテイク。さらに27周目、序盤トップを走行していた#3 山下健太も大湯をかわしていった。今回はペースが厳しく、またレース序盤にピットインしていた大湯はタイヤが消耗しはじめており、防戦一方の展開に。28周目には#16 野尻智紀に、30周目には#64 山本尚貴にかわされてしまい、大湯は6番手にドロップ。そのまま37週のレースを終えることになった。

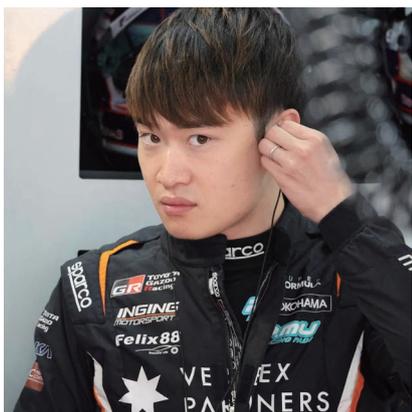
今回は表彰台に届くレースペースをみせることができなかった大湯。そして2戦連続でトラブルに見舞われてしまった阪口と、VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGにとっては課題が見える一戦となった。

シリーズは残り4戦。優勝を目指すことができるチャンスは少ない。チームは次戦へさらなる改善を目指していく。



COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「消化不良なレースになってしまいました。スタートは良くて、以前得意としていた状態に戻すことができました。序盤、福住選手を抜こうとして坪井選手に逆に抜かれてしまったのは反省点で、その後はペースも良くありませんでした。また無線のやり取りや戦略も納得できないものになってしまいました。ピット作業も練習から不安な感じがあり、それが出てしまったように感じています。チームともしっかり話し合って一丸となって取り組んでいきたいですね。レースは攻めたセットで臨みましたが、問題は別なところにもあるように感じています。結果的にトラブルが起きてしまいましたが、そこはもうチームの皆さんを信頼して次戦臨むしかないと思っています」



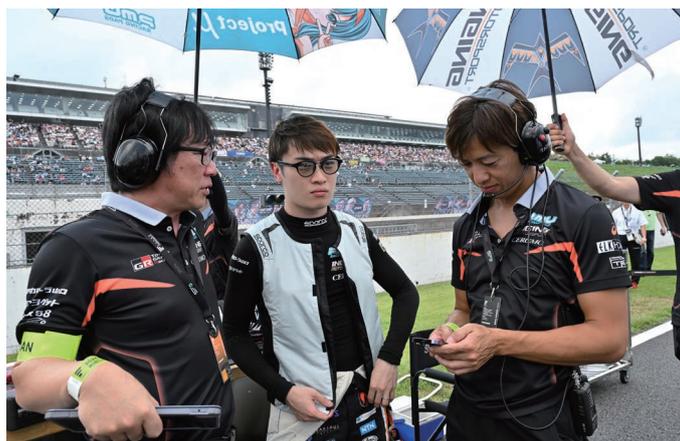
39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「スタートでは牧野選手に先行されましたが、僕としてはスタートは得意な方ですし、今回も自分としても、チームとしてもミスをしていないものでした。これについては牧野選手が良かったということだと思います。午前のフリー走行からレースペースは厳しくなるだろうと思っていましたが、結果的に良くなってはいたものの、その予測に近いものになってしまいましたね。今回は6位でしたが、ピットでのミスもあり、それでアンダーカットの-marginがなくなってしまいました。改善しなければいけないところはたくさんあると感じています。今回の現実をしっかり受け止めて、改善できていないところを見つめ直し、次戦に臨んでいきたいと思っています」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「大湯選手については、ロングランのペースが足りなかったことが響いてしまったと思います。ピットでもロスがありましたね。予選一発の速さについてはかなり安定してきていますが、今後決勝レースでのペースは改善しなければいけないと思います。また阪口選手については、残念ながらまたしてもトラブルが出てしまいました。原因はまだ調べていますが、昨日とは違うものでした。とはいえ、このところトラブルが続いてしまっているので、次戦までにクルマをしっかり見直さなければいけないと思います。今回はまた反省すべき材料が多かったので、次戦の富士に向けてきちんと見直していきたいと思っています。応援ありがとうございました」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第5戦モビリティリゾートもてぎ 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:00'10.235	
2	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'11.838	1.603
3	16	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:00'14.496	4.261
4	64	山本尚貴	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:00'15.227	4.992
5	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'22.963	12.728
6	39	大湯都史樹	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'28.557	18.322
7	15	岩佐歩夢	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:00'30.297	20.062
8	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'34.073	23.838
9	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'34.857	24.622
10	65	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:00'37.706	27.471
11	20	国本雄資	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'38.453	28.218
12	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'39.005	28.770
13	19	N. デ・フリース	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'39.472	29.237
14	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'40.131	29.896
15	55	大津弘樹	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:00'44.398	34.163
16	37	笹原右京	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'55.521	45.286
17	50	木村偉織	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:00'56.560	46.325
18	53	Juju	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'19.936	1'09.701
19	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	35	56'52.222	2Laps
20	12	三宅淳詞	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	35	1:01'30.373	2Laps
以上完走							
-	38	阪口晴南	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	16	26'29.624	21Laps

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	16	野尻智紀	58
2	5	牧野任祐	53
3	36	坪井翔	43.5
4	3	山下健太	39.5
5	15	岩佐歩夢	35.5
6	64	山本尚貴	29
7	39	大湯都史樹	25
8	8	福住仁嶺	21
9	6	太田格之進	18
10	38	阪口晴南	12

チームランキング

Rank.	Team	Total
1	TEAM MUGEN	82.5
2	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	65
3	VANTELIN TEAM TOM'S	42.5
4	KONDO RACING	41
5	PONOS NAKAJIMA RACING	39
6	VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	32
7	Kids com Team KCMG	22.5
8	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	9
9	TGM Grand Prix	3
10	San-Ei Gen with B-Max	1